

# 2022年度 9人制ルールの取り扱い

2022.2.11

## 【1】選手交代に関する事項

### 第13条第2項 セット間の選手交代

セット終了時にチームベンチにいた選手は、誰とでも交代して、次のセットの先発選手となることができる。この交代は、選手交代の回数に含まない。

(注)

- 1 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がない場合には、速やかに監督に確認を行う。確認の際は、サービスオーダー票で確認する。
- 2 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がされ記録用紙への記入が完了した後でも、再度、監督から先発選手の交代が出された場合は、副審のセット間終了（2分30秒）の吹笛前であれば認められる。

## 【2】試合中断の不当な要求と処置に関する事項

### 第14条第1項 不当な要求

タイムアウトまたは選手交代の要求で、次のいずれかに該当するものは、不当な要求とする。

- (1)ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時に、その後の要求
- (2)要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3)同じ中断中の2回目の選手交代の要求（インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。）
- (4)規定回数を超えた要求
- (5)第1サービスと第2サービスの間の要求

### 第2項 不当な要求の処置

- 1 不当な要求は、主審および副審は拒否する。ただし、プレーに影響を及ぼしたり、同一試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返したときは、そのチームを試合の遅延（第26条）として処置する。
- 2 不当な要求として拒否された場合でも、そのチームは同じ中断中に異なる種類の中断の要求をすることができる。

(注)

- 1 1回目の不当な要求は拒否をして、記録用紙に記載する。
  - (1)『サービス許可の吹笛と同時に、その後の要求』は、ラリー終了後に公式記録用紙に記録する。
  - (2)『要求する権利のない競技参加者がした要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定回数を超えた要求』と『第1サービスと第2サービスの間の要求』は、これらの要求があった時点で公式記録用紙に記録する。
- 2 2回目の不当な要求(遅延警告)の場合は、これらの要求があった時点で処置をする。
- 3 上記1(1)のケースで副審が吹笛してしまった場合は、タイムアウトの要求等のケースで選手がベンチに戻ってしまうなど試合を遅らせたと主審が判断した時は試合の遅延とし、特に試合を遅らせずに再開できる時には、遅延とはせずにサービス許可の吹笛をし直し、そのラリーの終了後に不当な要求の処置を行う。
- 4 不当な要求が遅延反則になったときは、ラリーの終了があったものとして取り扱う。

以上のように不当な要求があった場合、その都度記録員は、公式記録用紙に記録し、副審は、その内容を主審に報告する。

### 【3】ボールへの接触に関する事項

#### 第19条第2項 接触時の条件

選手は、サービス(第23条第1項)をする場合を除き、身体のだの部分でボールをプレーしてもよい。

(注)

インプレー中の選手の長い髪の毛がボールに触れても、ヒット(ボールへの接触)としない。したがって、相手のアタックヒットしたボールがブロックやレシーブ時に長い髪の毛に触れてもボールへの接触と判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

### 【4】インターフェアに関する事項

#### 第20条第5項 インターフェア

インプレー中、選手が次のような行為をしたときは、インターフェアの反則とする。

- (1)相手チームの選手に一方的に接触し、その選手のプレーを妨害したとき。
- (2)相手コート内にあるボールに、ネットの反対側から触れてプレーを妨害したとき。
- (3)ネット外側のロープに触れ、相手チームの選手のプレーを妨害したとき。
- (4)相手チームがプレーしているボールに対し、アンテナ外側のネット垂直面を越えて相手空間内にあるボールに触れたとき。

(注)

許容空間外のボールを取り戻すケースで、選手がネットの下から相手コート内に侵入し、相手側のフリーゾーンへ行った場合でも、インターフェアの反則としない。

ただし、プレーを妨害した場合にはインターフェアの反則とする。

## 【5】 サービスに関する事項

### 第23条第3項 サービスの反則

次のいずれかに該当するときは、サービスの反則とする。

- (1) サービス順を誤ってサービスをしたとき（サービス順の誤り）。
- (2) サービスの失敗を2回続けたとき（ダブルフォルト）。

(注)

チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報を与えられた時点の状態にサービス順を戻し、得点も誤った情報を与えられた時点まで戻す。タイムアウト、罰則はそのまま有効とする。

これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。